

総 合 討 論 (座長：東 量三・光岡知足)

(質問：山崎俊幸・武田薬品) われわれも種々の菌種について、薬剤感受性を調べており、被検株がある薬剤に対して、耐性か感受性かの判定を下す場合に(MICが大體)、どのぐらいの幅をもっているかで判断すべきか、という点に苦心するが、この点について各演者にご意見を伺いたい。

(答：大宅辰夫) 私は、耐性そのものについてはやっていないので、何ともいえない。

(答：阪野哲也) 難しい問題である。相当な菌株数を集めないと判断しにくい。私の成績における、感受性のグラフの場合のように、MICが3峰、4峰をえがいているようなときの耐性限界の判断には苦労する。

(発言：座長・光岡知足) 先に阪野氏の発表中で、自ら指摘していたように、*Lactobacillus* の場合には、*L. acidophilus* (*L. a.*)と*L. salivarius* (*L. s.*)とでは、薬剤感受性(MIC)が異なる。それを一括して集計すると、あたかも感受性分布に2つの山ができたようになる(一方が*L. a.*の山で、他方が*L. s.*の山)。したがって、*L. a.*、*L. s.*さらに*L. fermentum*も加えて、これらはそれぞれ別個に感受性を調べる必要がある。そして、各菌種の中で感受性分布に2つの山ができればその谷間を一応、感受性と耐性の限界とみてよ

いと思う。また、*B. fragilis* の場合には、(感受性は)割合一つの山にまとまる。

(質問：某氏) *C. sporogenes* のところでBCに耐性とあったが、本来感受性が低いものを耐性といってよいかどうかは問題がある。

(発言：光岡知足) その点は、先にふれた*L. a.*と*L. s.*の関係でもみられたが、*L. a.*にとって耐性(とみなされる値が)、*L. s.*の場合には、本来の感受性値である。

(発言：某氏) もう一つ先の発言につけ加えれば、医学細菌で、耐性といわれるのは、遺伝子の関与、つまりプラスミド性か、染色体性のいずれか、によるものごとをいっており、通常は感受性が2峰性をえがいた後の峰のものを言っている。(以下、聴取困難)

(座長・東 量三) 嫌気性菌の薬剤感受性測定法については、医学の場合は小酒井先生を中心とした検討委員会を決めた方法で行われており、その概要は演者の寺田先生から紹介があった。獣医学において、その方法に準じてやっていくか、どうかという点については、今日の演者の方々と討論などでご意見がでたが今後まだいろいろと検討を要する点があるかと思う。

(以上)

(事務局よりのおことわり) 以上の各討論の内容は、当日の録音テープから事務局の責任において集録した。

集録にあたり、各人の発言の内容は、紙面の関係上、若干要約した場合もあるが、発言の主旨はできるだけ正確に読者に伝わるよう注意を払った。また、事務局の判断で必要に応じて、適当な語句をカッコ内に補足した場合もある。なお、発言がよく聞きとれなかった場合もあり、また、意味のとりちがえもあろうかと思う。その場合には、ご遠慮なくお申しいただき、後日訂正したい。